

# 健康上の問題を抱えた児童・生徒に対する 特別支援学校教員の不安感

医療的ケアの実施・連携状況を中心に

○田邊優菜

(富山大学大学院人間発達科学研究科)

宮一志

(富山大学人間発達科学部)

KEY WORDS: 医療的ケア 不安感 連携

## (目的)

医療の進歩や在宅医療の普及に伴い、学校現場において医療的ケアを必要とする児童・生徒など様々な健康上の問題を抱えた児童・生徒が増加傾向にある。実際に、全国の公立特別支援学校に在籍する日常的に医療的ケアが必要な児童生徒は、平成 18 年度 5,901 名（全在籍者に対する割合 5.6%）から平成 28 年度 8,116 名（同 6.0%）と増加していることが報告されている（文部科学省 特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果）。医療的ケアを必要とする子どもの教育を受ける権利や、安定した教育を受ける環境を整えるために、平成 16 年より看護師の常駐等を条件として、学校における医療的ケア実施が可能になった。さらに平成 23 年より一定の研修を受けた教員による児童生徒の医療的ケア実施も制度上可能になった（中島, 2016）。一方で、教員が専門的知識や技術を伴う医療的ケアの実施に不安感を抱えていること（梶原ら, 2013）や、重症児の緊急時対応が現場の判断に任されている状況が不安の背景となっている（村上, 2007）ことが指摘されている。本研究では、医療的ケアに関する職種間及び医療機関との連携状況や、教員の不安感の程度・内容を明らかにすることを目的とした。

## (方法)

### 1. 対象者

A 県内の医療的ケアを実施している特別支援学校の教員（414 名）を対象とし、回収数は 334 名（80.7%）であった。調査は個人情報を取らない無記名自記式質問紙で行い、実施機関には口頭・文書で研究の趣旨・発表について説明し同意を得た。調査対象者へは回答をもって同意とした。

### 2. 調査項目

記入者の属性（性別、教員歴、現在の在籍、保有免許状）、児童・生徒の障害や健康上の問題に対する不安の有無・内容、学校で起きた事故の経験の有無・程度、保護者や主治医との情報交換に関する認識、医療機関に求める情報、校内の情報共有に関する認識・共有方法、医療的ケアを必要とする児童・生徒の担当経験・不安の有無・内容、医療的ケアに関する認識

## (結果)

94.0%の教員が、担当する児童・生徒の障害や健康上の問題で不安を感じたことがあり、不安の内容は「緊急時の対応」（69.7%）、「児童・生徒の健康状態の把握」（50.3%）が多かった。

73.0%の教員が保護者と情報交換ができていると感じているのに対し、主治医と情報交換ができていると感じている教員は 21.9%であり、医療機関との連携が難しいことが推察された。

医療的ケアを必要とする児童・生徒を担当したことのあつた教員は、59.3%であり、必要とする医療的ケアは、「胃ろう又は腸ろうによる経管栄養」、「口腔・鼻腔内の喀痰吸引」が多かった。

医療的ケアを実施したことがない教員は 88.8%であり、

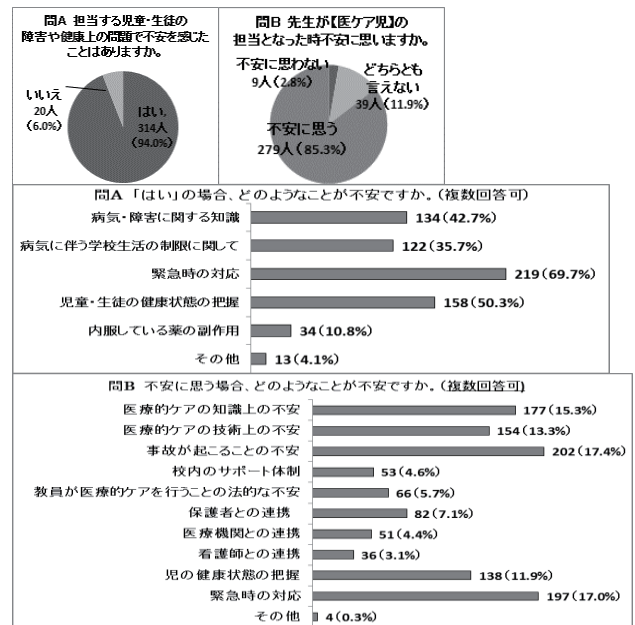
医療的ケアを必要とする児童・生徒を担当することを不安に思う教員は 85.3%であった。不安の内容は「事故が起こることの不安」（17.4%）と「緊急時の対応」（17.0%）が多かった。

## (考察)

本調査より、特別支援学校教員は、児童・生徒の障害や健康上の問題で不安を感じることが多いものの、主治医との情報交換の機会が少なく、不安感に対する直接的な検討・解決が難しいことが推察された。特に、最も多かった不安の内容である「緊急時の対応」に関しては、児童・生徒の障害や疾患特性、実施されている医療的ケアの内容を理解した上で、適切な判断・対応を行う必要があるため、主治医や医療的ケア指導医を始めとした医療機関との連携が重要となる。緊急時の対応をきっかけとして、学校と医療機関との連携を促し、最終的には教員の不安感の低減及び健康上の問題のある児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる体制を作ることが解決策の一つであると考えられた。一方で、今回の調査は A 県のみでの検討であるため、他県の状況も把握していく必要がある。

## (文献)

- 梶原由紀子・原田直樹・三並めぐる・増満誠・松浦賢長(2013) 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 20, 21-34.
- 文部科学省 特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果 (平成 18 年、平成 28 年)
- 村上貴孝 (2007) 学校医から見た肢体不自由養護学校の現状と問題点. 脳と発達, 39 (6), 423-426.
- 中島敦子 (2016) 特別支援学校の医療的ケアにおける養護教諭の役割に関する文献検討. ヒューマンケア研究, 7(2), 79-84.



(TANABE Yuuna, MIYA Kazushi)